



兵衛向陽閣
の
おもてなし
OMOTENASHI
ARIMA SPA HYOE KOYOKAKU



【アクセス】

お車をご利用

三宮から(約30分)
三宮 新神戸トンネル 箕谷出入口 阪神高速7号北神戸線 有馬口出入口 有馬温泉

大阪から(約45分)
大阪 阪神高速11号池田線 中国自動車道 西宮山口JCT 阪神高速7号北神戸線 西宮山口南出入口 有馬温泉

電車・バスをご利用

三宮から ●電車(約30分) 市営地下鉄三宮 北神急行 谷上 神戸電鉄 有馬 神戸電鉄 有馬温泉 徒歩6分
●バス(約40分) JRバス 阪急バス

大阪から ●バス(約55分) JRバス 阪急バス

芦屋から ●バス(約40分) 阪急バス ●タクシー(約25分)

宝塚から ●バス(約40分) 阪急バス ●タクシー(約25分)

飛行機をご利用

大阪国際空港(伊丹)から ●タクシー(約30分) ●直通バス(約30分)

関西国際空港から ●バス・タクシー乗り継ぎ ●海上アクセス、神戸空港経由(約1時間30分)

神戸空港から ●タクシー(約45分)



送迎車のご案内

有馬温泉駅・有馬温泉バス停・ロープウェイ有馬駅へは、送迎車で迎えに上がります。お着きになりましたらお電話下さいませ。
TEL:078-904-0501(代)

駐車場のご案内

当館には150台分の無料駐車スペースがございます。貸切バス・マイカー、いずれの場合も到着時には、まず玄関前にお車をお付けください。駐車場は数箇所に分かれていますので、係員が駐車場所をご案内いたします。

ホームページQRコード



ARIMA SPA Hyoe KOYOKAKU
兵衛向陽閣

〒651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町1904
TEL:078-904-0501(代) FAX:078-904-3838

ご予約専用ダイヤル ☎0120-400-489 ご予約受付時間 AM8:45~PM8:00
ホームページ <https://www.hyoe.co.jp> E-mail yoyaku@hyoe.co.jp

お問い合わせナンバー [HY-1717] 20171220000J

紹介動画QRコード



貸切露天風呂【朝霧】【夕霧】

三の湯併設の貸切露天風呂では、プライベートな雰囲気
で有馬の金泉をお楽しみいただけます。岩風呂ならではの
野趣感が魅力の「朝霧」と、石造りの湯船が印象的な
「夕霧」という2種の露天風呂を用意。どちらにも、手入れ
の行き届いた庭園を備えています。誰にも気兼ねすることな
く湯浴みを楽しみたい方に、おすすめです。(要予約・有料)



朝霧 夕霧



庭園を眺めながら小径を進んだ先にある湯処。湯治場風のしつらいになっているので、くつろ
ぎながら湯浴みをお楽しみいただけると評判です。また、露天風呂との間に設けられたガラス
戸を開放すると半露天風になる内湯のほか、野趣感あふれる岩風呂の露天も自慢です。

三の湯 北館9階

先人たちも愛した
名湯を堪能できる
表情の異なる浴場が自慢。

「日本三古湯」や「日本三名泉」に数えら
れる有馬温泉。「兵衛向陽閣」では、由緒
ある温泉街のなかでも最大級の規模を誇
る温浴施設を擁しています。男女日替わり
の「一の湯」「二の湯」のほか、湯治場風の
「三の湯」といった三つの大浴場では有馬温
泉特有の赤茶色の金泉を、こ堪能いただけ
ます。また、庭園付の貸切露天風呂もござ
いますので、当館自慢の湯を心ゆくまで
お楽しみください。

有馬温泉ならではの

の
おもてなし

OMOTENASHI

ARIMA SPA HYOE KOYOKAKU



一の湯 北館9階

浴場に足を踏み入れると目に入るのは、手入れが行き届いた庭園。五感が癒される環境で、
名湯を思う存分ご堪能ください。格子天井や照度を落とした照明など、湯浴みをお楽しみ
いただくための工夫を随所に施した自慢の湯にお浸りください。

二の湯 北館9階

左右対称に配置した石柱や曲線的な空間デザインなど、大浴場は
ローマ風のデザインを採用。内湯と同じく、洋風のしつらいを取り入れ
た露天風呂は、時間を忘れてゆっくりと湯浴みを楽しめる雰囲気です。
また早朝には朝日を浴びながら入浴できるなど、非日常的なひとときに
浸れます。

【サウナ】 6:00~22:00

一の湯・二の湯には浴場内には
サウナがございます。木の椅子
に座りゆっくりと身体を温め、
血の巡りをよくし、心身をリフ
レッシュしてください。適度な
水分補給と休憩を忘れずにお取
ください。



エステ【HANA】(要予約 有料)

女性専用

バリ島の伝統的なマッサージ、
バリニーズマッサージで癒しの
ひとときを。心地よいタッチで身
体がほぐされるのはもちろん、オ
リジナルアロマで心のリラク
ゼーションも期待できます。



癒し処【シエル】(要予約 有料)

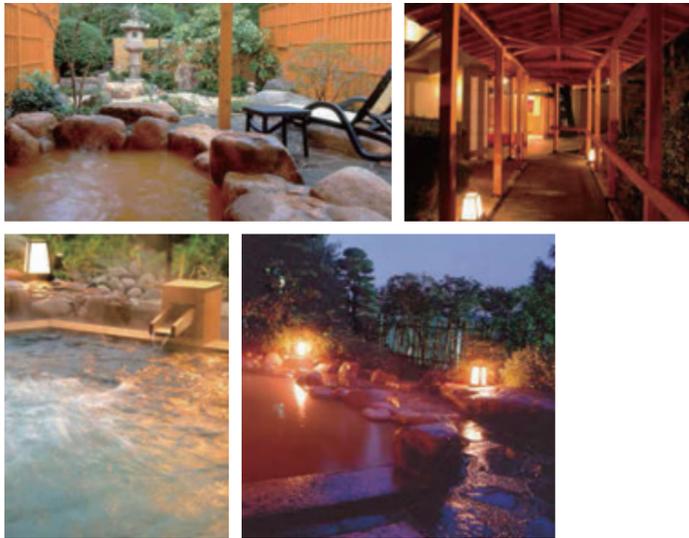
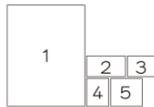
ボディやフットはもちろん、ヘッド
スパなども取り入れて、全身の
リラクゼーションをご提供。血液
やリンパの流れをスムーズにし、
人間が持っている自然治癒力
を高めていく健康法です。





豊臣秀吉公をはじめ、数多くの人々が愛した名湯・金泉を思う存分楽しむという贅沢。

1.山間の湯治場をイメージした三の湯。内湯と露天がフラットになっているので、開けた視界が開放的な気分を高めます。2.貸切露天風呂朝霧。プライベート感の高い空間で、金泉をお楽しみいただけます。3.情緒ある庭園を横目に三の湯へ続く小径。4.露天は野趣感のある雰囲気。5.夜には、灯りが幻想的な一の湯 露天風呂。



OMOTENASHI
Shimamoto Shinichi

食材や盛り付けはもちろん、器や提供方法など、すべてにこだわり抜いています。



料理のおもてなし

兵衛向陽閣料理長 島本 信一

お客様の期待を上回る細やかな心を配った日本料理でおもてなし。季節の移ろいを意識した「兵衛向陽閣」の料理は、煮る・焼く・炊くをしっかりと行う日本料理です。旬の食材を中心に使い、代々の常連の方から初めて有馬温泉に来られたお客様まで、老若男女問わず、ご満足いただける料理を目指しています。そのために、日本料理の基本である出汁や隠し包丁といった目には見えない部分にも手間暇をかけ、特別感のある料理に仕上げられています。お料理は、お膳に載せられていく料理の第一印象が大切。だからこそ、お膳の前にお客様が座った際に、驚きを与えられるように心を配っています。お越しになるお客様が楽しみにしていただいている料理だからこそ、すべてのお客様にご満足していただくことを意識しています。しっかりとした技術を身につけた職人たちが腕によりをかけた絶品の料理を、ぜひお楽しみください。



名湯で ごゆるり

兵衛向陽閣温泉担当

日原 一彦



和風・ローマ風・湯治場風という3つの湯船を用意しているのも、そのひとつ。夕・夜・朝ごとに違った雰囲気の中で湯浴みを楽しんでいただけるのも当館ならではの楽しみ方です。また、桜や新緑、紅葉や雪景色など、四季折々で表情を変える有馬の景色を眺めながら、ご入浴できるのも魅力です。手足を伸ばしてゆっくりと入浴が楽しめる温泉旅館ならではの湯船で、心ゆくまで名湯・有馬の湯をお楽しみください。



一の湯・二の湯の露天風呂には、雨雪の日やお日様の眩しい日も愉しんでいただけるよう、笠を用意しております。

GOYUKKURI
Hiwara Kazuhiko

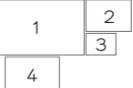
名湯をたっぷり湛えた
広々とした湯船で
至極のひとときを。

古くは日本書紀にも記載があるなど、悠久の昔から親しまれてきた有馬温泉。豊臣秀吉公が諸大名を引き連れて入浴したと伝えられるなど、もてなしの湯として名高い温泉です。そんな名湯を楽しみにして、たくさんのお客様が「兵衛向陽閣」にお越しになります。そのため私どもも、リラックスしてご入浴いただけるように広々とした湯船を設けており、また、ご年配の方にも不自由なく入っていただけるようにバリアフリー化を施したり、安全もおもてなしの一つと考えております。



山海の幸がたっぷり詰まった料理は、宴席に彩りを添える珠玉の品々ばかり。

1.お料理の一例。前菜や造り、焼物など、10種以上の趣向を凝らした料理が揃う。2.旬を迎えた鮮魚の造りは、季節の味がたっぷり。3.手間暇かけて季節食材のうま味を感じさせる前菜は、繊細な盛り付けで見た目にも鮮やか。4.焼き物は、鉄板焼きやしゃぶしゃぶ、すき焼きなどで。とろける口当たりが自慢です。



老舗旅館ならではのおもてなしでお客様をお迎え



伝統が育んだ
お客様に合わせた
おもてなし。

当館にお越しになるお客様は、ゆっくりくつろいで日頃の疲れを癒される方から神戸観光の拠点にされる方、親睦旅行まで様々です。だからこそ、お客様一人ひとりに合わせたサービスを心がけています。例えばお食事中、静かに語り合いたい方がいれば、賑やかに楽しみたい方もいらっしゃると思います。その場合でもそれぞれのお客様のご期待に応え、皆様に気持ちよくお過ごしいただくための、小さな気配りを大切にしておもてなしを常に心がけています。

五感のくつろぎを

兵衛向陽閣 仲居頭

竹野 なり子

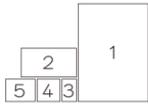


「次には有馬温泉へ訪れるときも『兵衛向陽閣』で」と思っていただけのようなサービスをこれからも心がけ、お客様をおもてなししていきたいと思っています。



非日常的な雰囲気の中であつろぐこの上ない贅沢なひととき。

1.大浴場があるフロアには、湯上り処を設置。手入れの行き届いた庭園を眺めながら贅沢なひととき。
2・3・4.歴史を感じる美術品などが、和を基調とした空間を彩ります。5.昼時の開放的な雰囲気とは打って変わり、夜になると静寂に包まれた幻想的な雰囲気に。



9階にある池には多数の鯉が泳いでいるなど、心を癒すつらいがいたるところに。

YASURAGI

寛げる空間には
笑顔のおもてなしが
あふれています。

有馬温泉は関西の奥座敷と称され、古くは豊臣秀吉公をはじめ、数多くの方が訪れています。700余年の歴史を誇る当館も、これまでに様々な方々にご愛顧いただき、現在に至っています。数百年もの歴史を積み重ねて今があるのは、常に「おもてなしの心」でお客様をお迎えしてきたからこそ。「兵衛向陽閣」のもてなしは、来られたときからお帰りになるまで続きます。お客様に寛いでいただきたいという気持ちですが、笑顔の接客に繋がっています。また、伝統や格式にあぐらをかくことなく、時代のニーズをくみ取り、常に進化し続けてきたことも「兵衛向陽閣」の歴史を語るうえで欠かせません。有馬温泉の醍醐味は、何度来ても楽しめ、満足できること。私ども「また来たい」とお客様に感じていただけるように、今後も代々受け継いできた伝統をしっかりと残しながら新しい事柄にも挑戦し、成長し続けていきたいと思っています。

有馬でやすらぎを



最大350名収容可能な大広間からプライベート感のある小宴会場まで。

1.少人数向けのプライベート感のある小宴会場もご用意。
2.自然豊かな四季に彩られる美しいロケーションも有馬の魅力。
3.100畳以上の広さを誇り、最大100名様でのご宴会が可能な「愛宕の間」。広い舞台もあるので、企業様などのご利用に最適です。
4.遠方より訪れてくださるお客様との会話はスタッフの楽しみ。



湯の街・有馬 そぞろ歩き

日本三古湯にも数えられ、季節を問わず、全国各地から湯治客が訪れる有馬温泉。関西の奥座敷ながらも、電車・車を問わず、都市圏からのアクセスがよいのも魅力です。「兵衛 向陽閣」は温泉街からもほど近く、温泉街を散策するのに最適なロケーション。旅気分を高める浴衣に着替えて、湯の街をそぞろ歩きしてみませんか。

紅葉シーズンには、園内が真っ赤に彩られる瑞宝寺公園。

湯けむり漂う昔と今が交差する街。「兵衛 向陽閣」がある有馬温泉には、湯の街情緒漂う温泉街があり、街歩きが楽しめるのも魅力です。ノスタルジックな雰囲気、石畳をはじめ、格子戸や板張り堀の建物などが今も残り、タイムスリップしたかのような気分が味わえます。温泉街には、いくつもの源泉や社寺仏閣など、有馬温泉とゆかりの深いスポットのほか、ユニークな博物館も多数点在しています。また近年では、地元の特産品を使った新名物を取り扱うショップといった新名所が誕生している点も見逃せません。数多くの温泉客から愛されてきた湯の街を、浴衣に着替えてカランコンとそぞろ歩きしてみると、歴史ある温泉街の新しい魅力が発見できるかもしれません。

有馬三恩人の一人、豊臣秀吉公ゆかりのスポットも多数。

ノスタルジックな温泉街には、立ち寄りスポットも充実。

ロープウェイからは、六甲山のダイナミックな自然が満喫可能。

炭酸せんべいや有馬籠など、お土産に最適な有馬名物もあり。

明治から現代までに発行された約3000点の切手を展示。

鱒ます恋こい神社
有馬ます池の園内にある神社。恋愛のパワースポットとして知られ、シーズンを問わず、多数のカップルが訪れます。

有馬川親水公園
有馬川の河川敷を整備した公園。夏には「涼風川座敷」、春には「桜まつり」の会場として、多くの人が集まります。

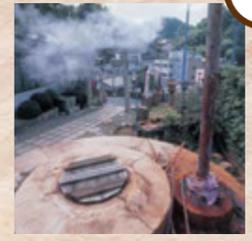
桜と紅葉
有馬川沿いには多くの桜が植えられていて、春には花が咲き乱れます。秋には瑞宝寺公園や善福寺などの紅葉が真っ赤に色付きます。

有馬温泉街は、関西でも屈指の紅葉スポットとして人気です。

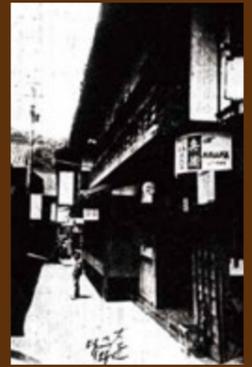


有馬玩具博物館
世代を越えて楽しめる、約4000点のおもちゃを収集。様々な方向から「遊び」の魅力を体験できる。

切手文化博物館
切手をテーマにした本格的なミュージアム。日本最初の切手をはじめ、郵便文化の歴史を知れる貴重な品々を収蔵。



滝川沿いに建てられていた「兵衛別荘」の一部



大正二年頃に撮影されたと思われる、当時町内にあった本店

名湯・有馬温泉とともに歩んできた「兵衛 向陽閣」の歴史

神代の昔、大己貴命と少彦名命という神が有馬を訪れた時、三羽の傷ついたカラスが水浴びしていた水たまりが有馬温泉の源泉であったと伝えられています。西暦600年ころには有馬温泉の存在は知られており、「日本書紀」にその記載が見られます。その後、有馬温泉は衰退するものの、名僧行基によって再興され、後の隆盛の基礎を築くこととなります。「兵衛 向陽閣」の名が歴史の表舞台に登場するのは、約700年前。それまでは「北の坊」と名乗っていましたが、太閤秀吉に「兵衛」と名づけられたという口伝も残っています。江戸時代には有馬温泉は幕府の天領となり、

大きく発展。その様は「有馬千軒」と称されるほどでした。明治時代に「兵衛旅館」は、現在の「金の湯」にあたる「二の湯」前に位置し、滝川沿いなどにはいくつもの「兵衛別荘」がありました。大正時代には、ハイカラなシャンデリアを備えた宴会場を設けるなど、新しい物をいち早く取り入れていました。昭和に入ると、神有鉄道(現神戸電鉄)が開業。裏六甲ドライブウェイも開通し、交通が便利になりました。昭和32年には「兵衛別荘」を「兵衛本館」とし、現在の高台の位置に「別館 向陽閣」を開業し、ふもとの駐車場から山頂にあった向陽閣の建物の間、全長100メートルのケーブルカーを設置。その後、プールを9階の空中庭園に作り、みなさんに親しまれました。



ふもとの駐車場と建物を繋ぐケーブルカー

四季を彩る有馬周辺。さまざまなイベントが

- 1月 入初式
- 4月 桜まつり・お茶会
- 6月 ホテル鑑賞 沙羅の花と二弦琴の会
- 7月 七夕ひょうたんまつり
- 芸妓さんのゆかた会
- 8月 ありま涼風川座敷
- ありま夏まつり
- 10月 秋まつり
- 11月 有馬大茶会